

転職者からのメッセージ

○ 警察本部勤務 警部補

警察官に採用になる前、民間病院の医局秘書として約1年弱勤務していた。そこで、医師が患者さんと真剣に向き合い尽力する姿や、病気が快方に向かい、笑顔になる患者さんの姿を見て、私も直接現場で、人と向き合い、人の役に立つ仕事がしたいと思うようになり警察官を受験した。病院で学んだ、一人一人の話を真摯に聞き、人の気持ちを大切に作る心は警察官となった今でも、私の基礎となっている。その後、勤務先の病院に行く機会があったが、警察官となった私を見て、医療の現場で学んだケアの気持ちを役立てていることに喜んでくれたことが、警察人生の第一歩とし進む活力となった。

○ 警察本部勤務 警部補

高校を卒業後、陸上自衛隊で1任期2年間勤務した。その後、新たな就職先を考えた時に北海道警察で働きたいと思った。何か人のために役立つ仕事をしたいという思いから自衛隊で勤務し、国のため、国民のための仕事として非常にやりがいのある仕事だったが、より国民のためにと新たな就職先を考えた時に真っ先に浮かんだのが、直接、困っている人を助けることができる警察という仕事だった。北海道警察に就職し、実際に警察の仕事をやってみると、全ての仕事が道民のためであり、その結果が道民から直接警察官個人に返ってくるところが自衛隊とは違うところであり、本当にやりがいのある仕事であると実感している。自衛隊で培った規律の保持と厳しい訓練は、私が警察の仕事をしていく上で間違いなく役立っており、前職の経験は現在の仕事に非常に貴重なものであると感じている。

○ 警察署勤務 巡查長

20歳で専門学校を卒業し、その後父から警察官を勧められ、この時に初めて警察官という仕事に憧れていたことを自覚した。警備会社に勤めながら試験を受け続け、5回目の試験で合格し、24歳で警察官になった。警察官の仕事は、警備業と比べてより仕事量、細かさ、正確さが求められるもので、また、警察官にしか出来ないことがたくさんあった。警備員も多くの犯罪者を取り扱う仕事ではあるが、悪質な犯罪者に対して何も出来ないことばかりで、卑劣な犯罪者に謝罪を強要され土下座をさせられた同僚もいた。私が当時警察官に求めたものは、今私が求められているものだと感じる事ができる。これは私が民間人として働いていた時の財産として、これからも大切にしていきたいと考えている。